

# 「子どもの徳育」等に関する論点・課題について

【第1～3回会議における委員意見等から】

## 徳育・子育て等の在り方

### 教え・身につけさせるべき内容・方法

#### ○ 何を、教え・身に付けさせるか（内容）

- \* 自らを律すること（精神の鍛錬）
- \* 教えられたルールに従うこと（親を尊敬し、目上の人の言うことに耳を傾けること）
- \* 規範の意識（してはならないこと・してよいこと・しなければならないことの認識）
- \* ルール以前の「してはならないこと」、善悪に対する知識と感性、人としての基本的なモラル

#### → 「徳」の主体化・社会化

（気がついたらそういう行動に出ていて、それが人間としての規範、社会の価値・秩序にも合致しているようになること）

「なぜしてはいけないのか」  
を感じる感覚

- \* 相手を思いやれる想像力、他者と共感できる力
- \* 相手との関係を調整していく力、コミュニケーション能力
- \* 社会的存在としての自己の認識、市民性、共同性・公共性への志向、社会的信頼

#### ○ どうやって、教え・身に付けさせるか（方法）

##### 《どの時期に・どの順序で》

《参考》 乳幼児精神保健等の知見（赤ちゃんの生まれ持つ力等）  
発達心理学の知見（道徳性の発達、心の理解、自立のプロセス等）

##### 《どのような手法で》

- \* 「ことば」を活用した心の教育（「ことばで育つ豊かな心、心を傷つける分別のないことば」）
- \* 子どもの良い面を伸ばす道徳教育
- \* 子ども同士が生でぶつかり合う体験を通じたコミュニケーションスキルの育成

##### 《どのような教材を使って》

- \* 絵本を読む活動、名作・名文に触れる（を聞く）活動

### 留意点

- \* 「宗教（戒律）を持たない」我が国において、価値や規範・規律の根拠を何に求め、それらをどう教えていくのか。（※ 芸術、宗教、スポーツ、文化を、科学技術、社会科学と並ぶ教育の軸の1つとして改めて位置付けし直すべきではないか。）
- \* 大人の規範としての善悪を早いうちから子どもにたたき込み、大人のルールを守らせること、子どものやるべきことを大人が決めてしまうことによって、結果として子どもの情動を殺し、子どもの「生きること」を奪っているのではないか。

### 社会環境

#### 【社会が抱える問題・病理】

※子どもの問題は、大人社会が抱える問題・病理の写し

#### 【近年における社会構造・環境の変化】

##### \* メディアの影響

- ・ 匿名性、姿を見せないコミュニケーション、バーチャルな世界の拡大、
- ・ いじめを助長するようなテレビ番組

##### \* 経済環境等の変化

- ・ 厳しい経済状況の中で子育てをしている親の増加
- ・ 遊興費を稼ぐための共働き、経済的には豊かな家庭における価値観の変化

### 子どもの発達特性・発達課題

#### 【乳幼児期】

- \* 愛着の形成
- \* 「心の理解」の萌芽、道徳性の芽生え

#### 【学童期】

- \* 具体的思考から抽象的思考への適応、「心の理解」の発達（⇔9歳の壁）
- \* 身体的・知的発達に伴う有能感（⇔劣等感）、旺盛な好奇心
- \* 道徳的他律から自律への移行

#### 【青年前期】

- \* 自己への関心、自我の解体と再編成
- \* 親からの自立

#### 【青年中期】

- \* 自我同一性の確立、自己の生き方の方向付け

### 家庭・学校・地域等の役割分担

#### ○ 誰が、何をするか

##### \* 家庭

- ・ 「家訓」を作る
- ・ 親子の共通体験を重ねる
- ※ 「親に対するしつけは、どうするのか」

##### \* 学校

- ・ 学習習慣を身に付けさせる
- ・ 生徒指導、学級活動等を通じた指導を行う
- ・ 部活動を通じ、授業では吸収できない子どもたちの「伸びたい気持ち」を吸収する

##### \* 地域

- ・ 「親になるための学習」講座等の機会を提供する

##### \* その他（福祉、企業、警察、…）

#### + 連携して取り組むべきこと

※ これまで学校に多くを求めてきたが、それだけでは限界

→ 一人一人の子どもの適切な理解とサポート